

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 3年 2月 24日

事業所名 児童発達支援事業所 かめさんち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	2	身体を使った活動時に十分なスペースを確保する際は机やイスを移動させている。活動に応じてプレイルームと集まり室に分けている。	
	2	職員の配置数は適切である	8		個別対応できる配置となっている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	6	全体スケジュールが導入されたのは、前身である。幼稚園での生活に備えると同室において、身支度への意識が高まるような見通しへの視覚的支援で写真での手順を伝えている。	構造化されているとは、自信を持って言えないので、視覚的に分かりやすく写真、絵などを提示するとよいと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	パーテーションなどで仕切るカーテンで隠すなど、少しずつ改善されてきていると思う。今年度は消毒についても意識を高めて対応している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	5		職員間での情報伝達や共有を確実にするために、もう少し工夫が必要だと思う。振り返りはしているが、内容がただの報告、今日のその子の目標が何なのか明確でない。PDCAになっていない。目標や振り返りを多くの職員でする余裕がない。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			保護者の意向の把握は、もう少し具体的に行う必要がある。評価票の実施は行っているものの、評価表内の記入の説明をする機会をもうけるべきだったと思う。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	2		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	5		するべき。質の向上の為に。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	月に1度テーマを決めて取り組んでいる。今後も必要性の高い内容を通して研修を深められたらと思う。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	2		モニタリング等を行っているが、保護者のニーズをどの程度分析しているかは分かりません。スタッフ全員との共有、話し合いが行われないうちで作成されているので、客観的なのか分からない。アセスメント時に、関わる複数スタッフで、話し合い機会をもうけ分析を深められたらと思う。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3		項目について改善していきたい。

適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			計画内容については選択して設定するように意識しているが、検討する際、複数スタッフと検討する機会を設けていきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3	4		支援計画の把握が、職員間で差があると思う。児童発達支援計画の話題が出てこない。根底には計画を意識して支援をしているが、全てのスタッフへの周知へは努力が必要と思われる。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	3	チームでの立案を意識し	時間配分に苦慮しており、今後も改善をしていきたい。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	あえて固定化しているプログラムもあるが、初めてのことも体験していけるように考慮している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	3	今後、個別活動をもっと取り入れていきたい。個別と集団での活動を取り組むように改善されてきた。	個別と集団での活動を、計画上では不足していると思うので増やしていきたい。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	1	出来ている部分もある。十分とは言えないが、確認できるように努めている。	計画的に職員との打ち合わせを実施していきたい。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	1	出来る範囲で行っている。少しずつ出来つつある。翌日(話をする、日誌確認)共有。	勤務時間の関係で振り返りに参加できない場合や、日によって十分とはいえないが、振り返ることで次回への支援への目標を高めていけるようにしたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	記録はとっている。個別の記録を意識して、支援の手立てとなるように努めている。	支援の検証につながっているかは分からない。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		モニタリングを手立てに見直しを検討している。	もっと複数スタッフとの検討をするように改善していきたい。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	連携に努めているが保護者を通じた情報把握に頼っている部分もある。状況に応じて児発管に相談して連携していけるように配慮している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	2	保護者や本児の状況に応じて連絡できるように努めている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	4		園との連携はこれからの課題だと思う。情報共有の回数を子どもに応じて増減していけるように、施設のスタッフの体制を整えていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	就学前、就学後と保護者のニーズにも対応しながら支援している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		そらまめとは今後していく。各スタッフが知り得た情報を共有していけたらさらにいいと思われる。

	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		7		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	6	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	振り返りでは伝えるようにしている。	保護者に対して伝える内容を複数スタッフとも協力し、共通理解していきたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4		家族支援を適切に行うための、個々の職員のスキルアップが必要だと思う。テーマ対象を少数での開催できる企画を考え支援していけたらと思う。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			計画の提示が、遅くなっていることが多く、書類業務の取り組みについて改善しながら、速やかに作成提示していきたい。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		面談週間を年2回設定している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		茶話会の場の提供 月1茶話会実施	月1回の茶話会はあるが、より保護者同士の連携が取れるようなフリースペースも確保し提供していけたらと思う。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		迅速な対応ができるようにしつつ、一人のスタッフの意見で完結するのではなく、他スタッフの意見も参考にできるように、共有にも努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		コロナ感染の終息したら計画していきたい。
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	3	マニュアル策定をしてはいる。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1		年2回の実施はしているが、日ごとの利用者状況、災害に応じた対応について更に把握することが必要と思われる。
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	初回利用の時や年度替わりの際に記入してもらい把握している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		必要時には、医師に指示をもらえるようにしていく。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			

47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	対象となる子どもさんについては、個別支援計画の中に記載し、日々の記録にも実施内容を伝えている。	
----	--	---	---	---	--